



防コミの歩き方

BOSAI
KOBE
MIRAI

防コミが主体となった「災害時みんなでお助け隊」結成にむけて ～熊野地区防災福祉コミュニティによる災害時要援護者避難支援計画の策定～

兵庫区の北西部に位置する熊野地区は、古くからの住宅地が多く存在し、住民の高齢化も進んでいます。熊野地区防災福祉コミュニティでは、昨年度から防コミ提案型活動助成金を活用して、「災害時要援護者避難計画」の策定に取り組んでいます。昨年5月に自治会長や民生委員の方にも参加いただき、第1回目の会議を開催しました。

災害時要援護者の募集

計画の策定に向けて、要援護者の募集方法の検討から始めました。その結果、東灘区の魚崎町防コミの取り組み（「手上げ方式」による希望者を要援護者として登録する方法）を参考にして、7月には地域の全世帯に要援護者登録用紙を配布して、登録を呼びかけました。

ところが、要援護者登録直後にお亡くなりになられた方もおられ、私たちが収集した情報は常に変化していることを痛感しました。今後は、要援助者情報の更新について検討していく必要があると考えています。

「災害時みんなでお助け隊」の募集

要援護者の募集より苦労したのが、支援者である「お助け隊」の募集でした。要援護者募集時と同様に、地域の全世帯に登録用紙を配布しました。それに対して住民の皆さんから、「今さら言われなくても日常生活の中で『見守り・助け合い』活動はおこなっている」「支援者名簿に登録することで生じる責任は?」「取り組みの重要性は理解できるが、名簿登録には抵抗がある」等の意見が上が

り、支援者はなかなか集まりませんでした。

そこで、自治会単位での説明会を通じて「支援者登録によって、要援護者に支援義務が発生するものではない」ということを住民の皆さんに理解していただくとともに、防コミ役員が要援護者の近隣住民に支援者登録を呼びかけました。その結果、徐々に登録者数が増加してきました。

こうして「災害時みんなでお助け隊」が結成されました。本年度は、3回の「お助けニュース」の発行や、支援者への説明会、要援護者避難支援訓練を実施する予定です。これらの活動と並行して、要援護者及び、「お助け隊」の登録を住民の皆さんに継続して呼びかけていきたいと考えています。

取り組みを進める段階では、地域の中でも意見がまとまらず、何度も挫折しそうになりました。しかし皆さんのご理解をいただき、3月現在、要援護登録希望者131人、支援者145人に登録いただくことができました。これらの情報は防コミで厳重に保管しています。

災害時要援護者支援計画の策定はこれからが本番です。地域の皆さんからご提供いただいた貴重な情報を活用した支援計画を策定できるよう、今後とも消防署のご支援・ご協力のもと、すべての地域住民が安全に、安心して暮らせるまちづくりを目指していきたいと考えています。

(熊野地区防災福祉コミュニティ

防災部長 大歳孝樹)